

未来へつなげていこう

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、
ラグビーワールドカップ2019に向けて

2019年、2020年の ビッグイベントをまちづくりへと生かしていく

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、スポーツの祭典とともに文化の祭典でもあります。

そこにはスポーツを通じた感動体験の享受や市民の健康増進のみならず、市民文化の醸成や魅力的なまちづくり、そして共生社会の実現などの幅広い取り組みが求められています。

武蔵野市はオリンピックやパラリンピックが持つ理念を尊重するとともに、ラグビーワールドカップ2019も含めた大会への取り組みが、本市のまちづくりにとって有益なものとなるよう、三つの取組方針を定め、これを推進します。

三つの取組方針

- (1) まちの魅力の再発見と国内外への発信を通して、市民の力が活かされるまちづくりを進めます。
- (2) スポーツや文化を通じた感動や交流により、一人ひとりを大切にし、多様性を活かす市民文化を育みます。
- (3) 誰もがまち歩きを楽しめるまち、暮らしやすいまち、外国人にもやさしいまちをつくれます。

スポーツを通してずっと心に残る感動体験を！

誰もがスポーツに親しめる取り組み
～「Sports for All」～



オリンピック・パラリンピック種目でもあるカヌーや水球、ラグビー、ウィルチェアーラグビー、バレーボール、シッティングバレーボール、サッカー、ブラインドサッカーなど、数々の競技体験イベントを実施。

素晴らしい個性に光をあてる

～ 生(き)の芸術 武蔵野アール・ブリュット ～



独自の方法和発想で制作された美術作品を指す「アール・ブリュット」。市民協働によって作り上げ、障害のある人などへの理解を深めるアート展です。アートを通して多様性を大切にする地域づくりを進めます。

25年の交流が育む、人と人との心のつながり ～ ホストタウン交流 ルーマニア ～

武蔵野市は、全国の自治体とオリンピック・パラリンピック参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流などを図るために行う「ホストタウン」に立候補し、ルーマニアのホストタウンとして登録されました。

武蔵野市とルーマニアのブラショフ市の交流は、平成4年の交響楽団への支援から始まりました。その交流が縁となり、平成10年には、ブラショフ市内に交流活動の拠点となる「日本武蔵野センター」を設置し、今日まで日本語教室や市民交流などを通して、日本とルーマニアの交流のかけ橋として役割を果たしてきました。

武蔵野市は、ルーマニアのホストタウンとして、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けてさまざまな交流活動を通してルーマニアを応援し、文化・スポーツの相互交流を実施しています。



Interview

INAC 神戸レオネッサ

いわぶち まな
岩淵 真奈さん からメッセージ

2020年のオリンピック・パラリンピックは開催国ということもあり、とても楽しみです。昨年は“Sports for All サッカー”に私も参加し、武蔵野市の子どもたちと一緒にサッカーを楽しみました。

私はケガをしていた時期でも、サッカーが好きという気持ちと、ステップアップする楽しさを大切に、モチベーションを高く保ってきました。今後も東京オリンピックに出場、活躍することを目標にして頑張りたいと思います。オリンピック・パラリンピックをきっかけに、多くの人にスポーツの魅力や楽しさを再発見してほしいですね。



Profile

いわぶち まな
岩淵 真奈さん

平成5年生まれ、武蔵野市出身のサッカー選手。兄・岩淵良太選手の影響もありサッカーを始める。小学生の頃は武蔵野市内にあるクラブに所属。サッカー日本女子代表として、数々のワールドカップやオリンピックに出場。また、FCバイエルン・ミュンヘンにも所属していた経歴を持つ。現在はINAC神戸レオネッサで活躍中。

